

六華ぞ窓に

(平成七年度寮歌)

宇野直哉 君 作歌

永田将人 君 作曲

一

六華ぞ窓に刻まれる

灯灯ともされて

家家の街に散るほど

まみえんとすは

迷走の土と初なる乙女

鈍き銀なる空の下

暖かき片隅求むる若人等

二

時効なき戦争裂かれたる

一会の愛の光芒と

時代に澱の沈むを見つつ

新興の今何かを思う

世にふる柳の薄緑

岸に萌えただよい

しだれて音もなく

三

白き岩肌かいなとり

登りて伝う水の城

折しも廠の潤い映えて

光の花の冠受くを見ゆ

この灼熱よこの碧水よ

たどりこし我等が

魂まで飛沫せよ

四

別るる道を限りとて

露けき草にさし入るも

月日に添えてうち紛れず

思い乱るる面影に添う

友の一言軽からず

肝胆相照らしき

月影燦然と

五

残照長く尾を引けば

安らぎ満ちて夜の声

さらば我らが土中の碧の

その重みこそ出会いし歓喜

新たな一歩しるしつつ

忘るまじ清き

華かなる憧れを